

2019年度研究分科会行事と研究内容について

(※行事は一部変更の可能性もございます)

研究部会長：大武 義人

分科会名／主査	行事と研究内容
金型研究分科会 関西ゴム技術研修所 山口 幸一	<p>【シンポジウム】 6月11日(火) 於 東京 「ゴム技術者に役立つゴム金型技術～現場の問題点と解決策～」 受講料(税別) ゴム協会員 22,000円 学生会員5,000円 会員外 30,000円</p> <p>【研究内容】 金型に関わるプレス加硫、射出成形など成形機、開発動向、ゴムの加工工程のトラブル、汚染された金型のレーザー洗浄技術、金型の表面処理、シミュレーションなどの技術課題について技術講演会、見学会を行った。また、金型技術の継承、ゴム技術者のための“ゴム金型技術Q&A”の出版に向けての質問事項・解決策・その執筆者などの検討を行った。</p>
ゴムの力学研究分科会 琉球大学 藤川 正毅	<p>【講習会】 8月23日(金) 於 大阪 受講料(税別) ゴム協会員 22,000円 学生会員5,000円 会員外 30,000円</p> <p>【研究内容】 ゴム材料やゴム製品の力学挙動に関し、解析、実験、シミュレーション(CAE)という異なる視点からの情報や、企業、大学、ソフトベンダーという異なる立場からの情報を交換し議論する場を提供することで、ゴムの力学研究の発展と応用展開に貢献する。</p>
ゴム練り研究分科会 久留米高等工業専門学校 名誉教授 藤 道治	<p>【シンポジウム】 9月25日(水)・26日(木) 於 東京 「ゴム練りの基礎から実践へⅢ～ゴム練り機の違い～」 受講料(税別) ゴム協会員 27,000円 学生会員5,000円 会員外 35,000円</p> <p>【研究内容】 ゴム練りにはゴム製品に対応したさまざまな練り方があり、多用されているインターナルミキサーの練り挙動が複雑であることなど多種多様な技術課題がある。年4回の分科会を通じてこの様な課題を少しずつ調査検討して明らかにし、実際に役立つゴム練り技術を見出していくことを目指す。</p>
接着研究分科会 岩手大学 平原 英俊	<p>【シンポジウム】 10月予定 受講料(税別) ゴム協会員 22,000円 学生会員5,000円 会員外 30,000円</p> <p>【研究内容】 ゴム接着技術は、ゴム工業における極めて重要な生産加工技術の一つである。直接接着技術および接着剤を適用する間接接着技術の双方を基礎的、理論的観点から討議し、実際に役立つ技術開発を目指している。</p>
成形加工技術研究分科会 (一財)化学物質評価研究機構 近藤 寛朗	<p>【シンポジウム】 10月予定 受講料(税別) ゴム協会員 22,000円 学生会員5,000円 会員外 30,000円</p> <p>【研究内容】 成形加工分科会の現在の対象は以下となる。①配合、混合、押出、圧延、加硫という各工程を通して相互間を論じる、②未加硫ゴムの物性と流動の探索、③加工性改善策→材料面、機械面、④加工機に関する最近の知見及びその応用。</p>
分析研究分科会 協和界面科学(株) 星埜 由典	<p>【シンポジウム】 11月予定 受講料(税別) ゴム協会員 22,000円 学生会員5,000円 会員外 30,000円</p> <p>【研究内容】 材料の分析・解析を専門とする研究者の集まりであり、分科会を4回/年、シンポジウムを1回/年開催して、切磋琢磨している。分科会活動 ①分科会員による日頃の成果の技術講演 ②ゴム技術シンポジウムでの技術的質問事項への回答に基づくQ&A集の作成</p>

<p>トライボロジー研究分科会</p> <p>金沢大学 岩井 智昭</p>	<p>【シンポジウム】 2020年1月予定 受講料(税別) ゴム協会員 22,000円 学生会員5,000円 会員外 30,000円</p> <p>【研究内容】 ゴム材料の摩擦・摩耗・潤滑に関して、材料設計、実験やシミュレーションなど幅広い視点から捉えるとともに、地球環境保全のための高効率化、省資源化、リサイクル化などを考慮したゴム・エラストマーのトライボロジー設計に対する基礎的から先進的研究を議論し探求する。</p>
<p>環境劣化研究分科会</p> <p>デンカ(株) 藤井 信彦</p>	<p>【シンポジウム】 2020年2月予定 受講料(税別) ゴム協会員 22,000円 学生会員5,000円 会員外 30,000円</p> <p>【研究内容】 ゴム原料やゴム製品の劣化検出、寿命推定、劣化対策など、種々の視点から議論。2018年度は、「アクリル系ゴムの特長」「高分子の耐熱性評価方法」「酸化マグネシウムの特徴と用途」「エラストマーの分子鎖の制御と発現する物性の関連」「PC製樹脂ガラスの色変化測定による劣化評価」「水劣化、特にオゾン水によるポリマーのダメージ」などの題目で勉強会を開催した。また、「ゴム・エラストマーの安全、安心を支える劣化対策技術」と題したシンポジウムを開催し、熱・疲労・オゾン・水などによる劣化の解析と防止技術を紹介した。</p>
<p>衛生問題研究分科会</p> <p>長岡技術科学大学 河原 成元</p>	<p>【シンポジウム】 2020年2月予定 受講料(税別) ゴム協会員 22,000円 学生会員5,000円 会員外 30,000円</p> <p>【研究内容】 ゴム製品(含原料ゴム)、ゴム用薬品、プラスチック関連物質の生体安全性及び規制等に関する自主的調査研究や大学、公的機関と連携して先端情報の収集活動を行った。天然ゴム、天然ゴムの分解、ラテックス用ポンプ等について情報収集を行った。</p>
<p>配合技術研究分科会</p> <p>横浜ゴム(株) 鹿久保 隆志</p>	<p>【シンポジウム】 2020年3月予定 受講料(税別) ゴム協会員 22,000円 学生会員5,000円 会員外 30,000円</p> <p>【研究内容】 企業、大学、公的機関から基本的な配合手法や新材料・新技術等を紹介することで相互に勉強し、参加者各自のレベルアップ、さらには業界全体のレベルアップを目指した活動を行い、ゴム産業の発展に貢献する。</p>
<p>水素機器用エラストマー 材料研究分科会</p> <p>九州大学 西村 伸</p>	<p>【シンポジウム】 未定</p> <p>【研究内容】 ゴム・エラストマー材料の材料強度や化学構造に対する高圧水素の影響評価、材料と水素の相互作用の解明に関する議論に基づいて、ゴム・エラストマー材料の水素特性に関するデータベース構築を進めた。水素機器に使用される水素ガスシール用ゴム・エラストマー材料の素材開発、シール部材開発、シール部材ユーザーという異なる視点や立場からの情報交換、議論の場を提供し、水素ガスシール用エラストマー材料の研究開発の発展と応用展開を目指す。</p>
<p>新世代エラストマー技術 研究分科会</p> <p>東京工業高等専門学校 山本 祥正</p>	<p>【シンポジウム】 未定</p> <p>【研究内容】 天然ゴム、グアユールゴム、新規合成ゴムおよびゴム関連材料の構造や物性に影響を与えるさまざまな要因を細部にわたって探求し、ゴム製品の分子レベルにおける真の姿をあらわにすることを目的としている。目的を達成するため、若手メンバー間でゴム材料の構造解析や物性評価法を検討し、それらの情報共有、ネットワーク構築、コア討議、成果報告およびゴム関連メーカーでの新規材料技術習得を行う。</p>
<p>エラストマーの補強 研究分科会</p> <p>ロンドン大学 深堀 美英</p>	<p>【シンポジウム】 未定</p> <p>【研究内容】 エラストマーの補強を“材料”、“補強構造・補強メカニズム”、“補強効果”の3つの要素として捉え、互いの関係をさまざまな“測定・解析法”によって探るとともに、3者の統合を目指す。</p>

ご興味やご関心のある分科会がございましたらぜひともご参加のうえ、今後のお仕事・ご研究にお役立てください。なお、研究活動費として1万円程度の年会費が必要となります。また、日本ゴム協会の会員であることがご入会の条件となります。迷われている方、一度ご相談ください。

お問合せ先 研究部会担当：TEL 03-3401-2957 FAX 03-3401-4143 E-mail: kenkyuubukai@srij.or.jp